

市長、市議会議長連名でプーチンに抗議文

市民団体は、かに池交差点で抗議のスタンディング



上越9条の会、新婦人上越支部、市民連合・上越などの市民団体は、かに池交差点で5日、ロシアのウクライナ侵略を許せないとして、プラカードやノボリを持って、抗議行動を行いました。

中川幹太上越市長と飯塚義隆市議会議長は2日、ロシアのウクライナ侵略と核兵器による威嚇（いかく）に抗議し、プーチン大統領に抗議の声明文送付しました。以下はその全文です。

ロシアがウクライナ侵略に踏み切り、核兵器の使用を示唆した一連の行為に対して、世界の人々との友好の絆を強め、すべての国のあらゆる核兵器が速やかに廃絶され、恒久平和が確立されることを強く願い「非核平和友好都市」を宣言した上越市民を代表して、ここに厳重に抗議します。

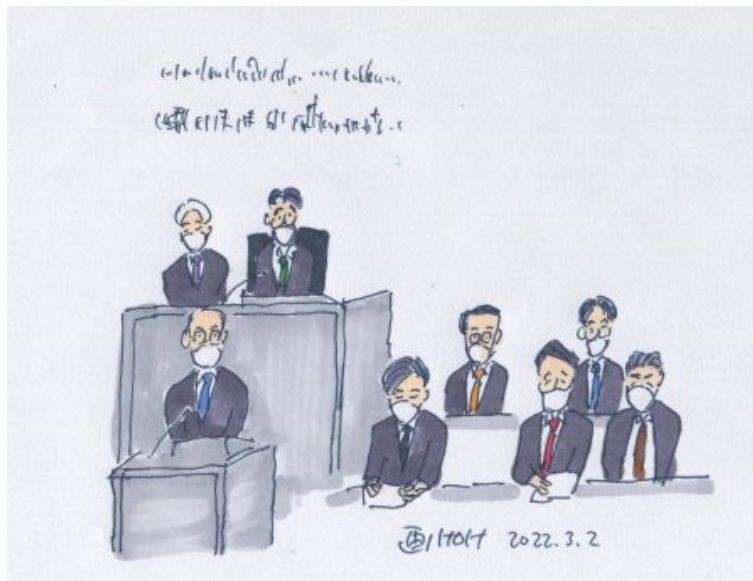
この行為は、国際社会の平和と秩

序、安全を脅かし、明らかに国際連合憲章に反する行為であり、断じて容認できるものではありません。

武力による侵略は、罪のない多くの市民の犠牲を生み、恒久平和を希求する世界の人々の思いを踏みにじるものです。

また、国際社会が核兵器のない世界の実現に向けて努力を続けている中、核兵器の使用はおろか威嚇も断じてあってはなりません。

貴国には、国際法に基づく誠意をもった対応を強く求めるとともに、ロシア軍の完全撤退と平和的解決に向けた外交努力を強く求めます。



3月議会が2日から始まりました。市長の提案理由の説明の後、5人の議員が登壇し、総括質疑を行いました。私は4番手、日本共産党議員団を代表し、市政運営の基本に係わる総合計画のことや医療再編の動きとの関連などを聞きました。このうち、市長が言う「ひとづくり・地域づくりの取組と（来年度から始まる）次期総合計画における地域づくりとの関係をどのようにとらえているのか」との質問に、市長は、「総合計画には地域自治の強化に向けた

総合計画や医療再編などで総括質疑



【キクザキイチゲ】（再掲）キンポウゲ科の多年草。漢字で「菊咲一華」と書きます。子どもの頃、「オトコガタコ」と呼んでいました。雪割草と同じく雪解けとともに花を咲かせます。花の色は白、ピンク、青があります。私の事務所の近くには白色の花を咲かせるものがあります。花言葉は、「静かな瞳」「追憶」「耐え忍ぶ恋」などです。

基本的な考え方を反映する」とし、「新たな仕組み」については今後の課題だとのべるにとどまりました。また、「医療人材の確保や在宅医療の充実の取組と地域医療構想との関連」について質問したところ、市長は「人材受入れのための環境整備と仕組みづくりに取り組む必要がある。地域医療構想との関連を意識したものは、ない」と答えました。しかし、再質問では、「ある程度の統合は必要である」と答えており、今後、しつかりとした追及が必要です。

西山英夫さんの切り絵展

懐かしい昭和の風景を描いた西山英夫さん（石橋）の切り絵展が今月末まで、五智歴史の里会館で開催中です。私や母、子どもが写っているわが家の古い写真も活用され、切り絵となりました。



はしづめ法一の活動レポート

No.2052 2022.3.13

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見たある記」は ← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第六九九回 父「帰る」

「帰ったと」……そう言って「父がわが家に姿を見せた」のは先月二八日の午前二時一五分のことでした。

父は二〇〇九年の四月八日に市内の病院で亡くなっていました。ですから、父が家に帰ることはありません。夢の話です。夢の中では、父が玄関に入ってきたのか、居間に入ってきたのか、よくわかりませんでした。そのときの顔も記憶に残っていません。ただ、「帰った」という父の言葉だけはしっかりと聞こえたのです。

夢から覚めた私は、すぐにスマートフォンを開いて時刻を確認しました。その時刻が二時一五分だったのです。

時刻を確認した私は、次に、そばに寝ていた母の顔を覗き込みました。正直言って、父が母を迎えに来たのではないかと心配になったからです。母はちゃんと息をしていました。ああ、良かったあ……。

では、いったい何をしに父は「家に帰ってきた」のか。だいたい、亡くなってから夢に出てきたのは一三年間で、せいぜい二、三回なのです。

久しぶりに「父がわが家に姿を見せた」理由を私なりに考えました。

まず思ったのは、父と同級生だった和作さんが先日亡くなったことです。わが家とは親戚筋であり、酒造り唄の仲間だったことから、生前、父は和作さんのことをよく話していました。天国で再会した父が、懐かしくなっただけが家を思い出し、やってきたのかも知れません。

数日後、「これだ、親父が帰ってきた理由は……」と私が思いついたのは、庭木のことでした。

じつは、三月二日から二日間、わが家では屋敷内の樹木の伐採作業をもらうことになっていました。隣の家の屋敷まで枝を広げていた大きな杉、どんどん背が伸びたケヤキ、幹の半分が腐ったプラム、エン

ジュなどを切り倒し、処分してもらうことで業者さんと話が出来ていました。そのことを知った父が気になって「家に姿を見せた」、それなら納得がいきます。

いまのわが家は一九八二年（昭和五七年）に吉川町尾神（当時）にあった家を移築したものです。移築したその年から、父は庭にいくつかの石を配置し、ヤシ、エンジュ、プラム、カリン、梅、グミ、紅葉などの木を次々と植えていきました。ある意味、わが家の庭は父が造ったものでした。

それらの樹木のうち、プラムやエンジュなどは今回の伐採作業で処分してもらうことにしていました。父の「許可」をもらっていませんでした。そのことに何となく後ろめたさが残っていました。それが、「父がわが家に姿を見せた」ことにつながったようです。

実際の作業では、家の裏側にある大小七本の杉をはじめとして、全部で一九本もの木を切ってもらいました。このうち、家の裏側の木については、切り倒しても、それらを簡単に運び出すことができません。それで、二五トンのクレーン車を使っての作業となりました。

私はちょうど三月議会と重なりましたので、伐採作業はほんの一部しか見ることはできませんでした。心配していた家の屋根の上をクレーンが行ったり来たりして伐採木などを運び出す作業は順調にいったようです。また、家の裏側の一番大きな杉については、伐採作業もレッカー車を使って行われた模様です。

どうあれ、作業が予定の日数で無事に終了してホッとしました。これで強風によって大きな木が隣の家やわが家の屋根に倒れかかるという心配もなくなりました。私が留守中の作業は、おそらく父が見守ってくれたものと思います。作業が終わってから、仏壇の父の遺影に手を合わせました。



善長寺

市内各中学校で卒業式、1756人が巣立つ

市内の名中学校でこのほど卒業式が行われました。今年の卒業生は上越教育大学付属中学校を入れて1756名です。各校とも新型コロナウイルス感染症対策をとるなかでの式となりましたが、卒業生は元気に巣立っていきました。

このうち、吉川中学校では、31名の生徒がめでたく卒業しました。

式典で今井量校長は、北京冬季オリンピックでのカーリング女子のたかいにふれながら、「失敗を恐れ

ることなくいろんなことに挑戦してください」などとはなむけの言葉を卒業生に贈りました。

卒業生を代表して小山滉稀さんは、「自分たちの夢に挑戦するため、私たち31名は卒業します」「3年間、仲間と共に笑い合う思い出を作ってきた。みんなと出会えて本当に良かった」とのべました。

マイクの調子が悪いというハプニングがありましたが、いい卒業式でした。イラストは吉川中学校です。

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月2日(水)	3月9日(水)
上越南消防署	0.053	0.050
上越北消防署	0.043	0.040
新井消防署	0.053	0.057
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.060	0.053
高士分遣所	0.050	0.040

